

河川構造物の景観設計

正会員 三浦 行政

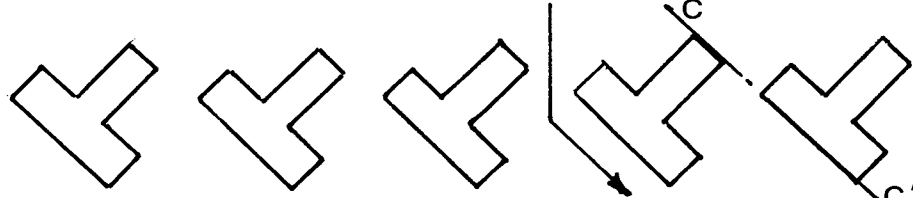
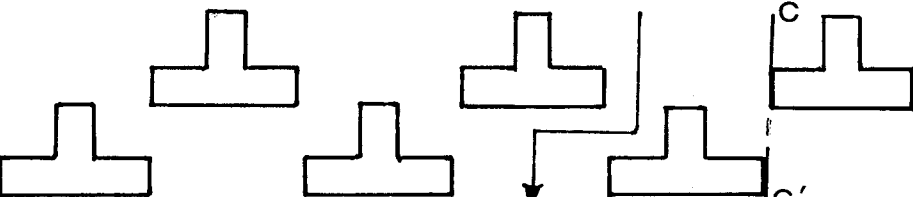
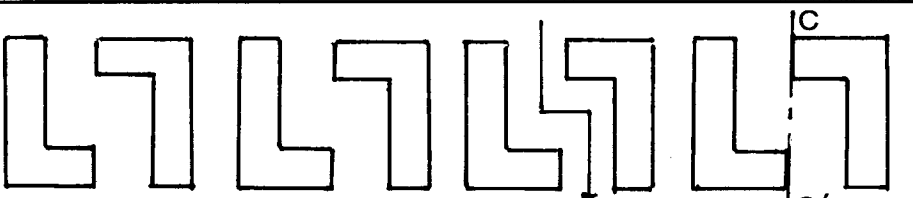
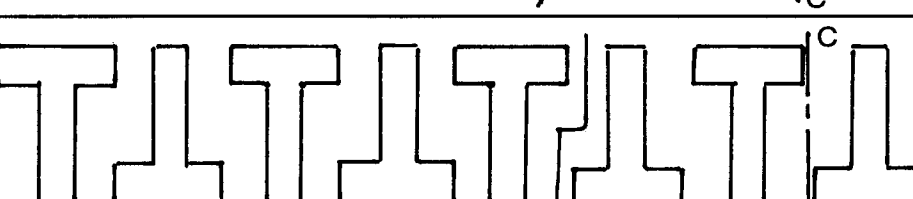
1. はしがき

かつて、わが国の河川工事の中で、現場近くで採取した、赤松丸太、粗朶、玉石を素材とし、合掌杵、粗朶沈床、詰石蛇かご、玉石張などの工事が各所で行われ、これに変わって現在ではコンクリート製品が主流をなし、水辺の景観にも変化が見られ、これら製品の役割として抵抗物を設置することで、水流を分散させ、制御し水害の抑止効果に加えて、造形要素を組み入れた水制工および根固工について図を用いて説明する。

2. 水制工

常用水位において抵抗部の間を水流が通過するもので、流れは岸に向けないように指示線C---C'に添い配置する（図-1）に示す。

図-1

水制形状	平面配置
	
	
	
	
	

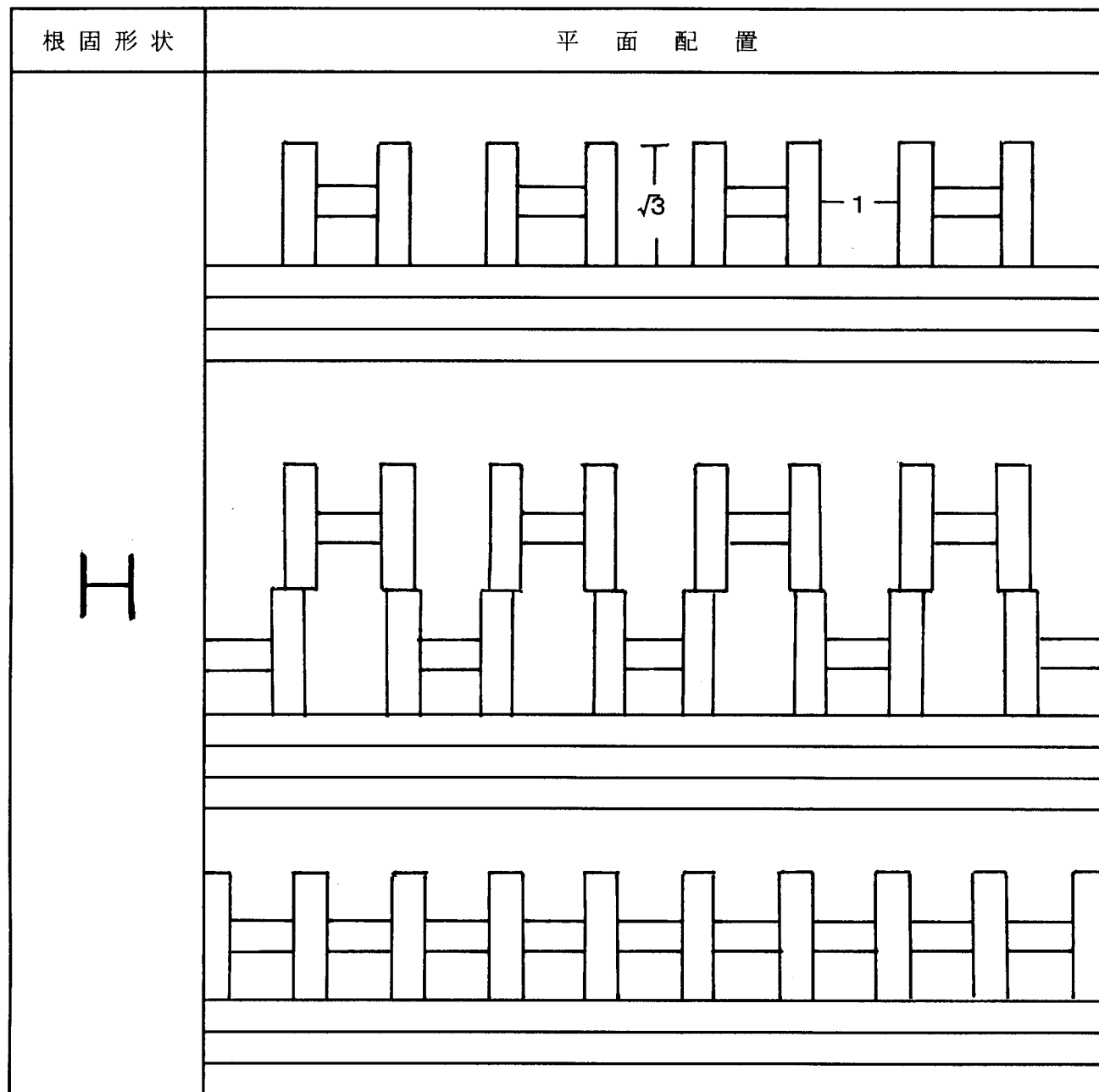
形状概念

〒273-0865 船橋市夏見6-7-15 TEL 047-423-1639

3. 根固工

低水路での流れを抵抗部で抑制するもので、離隔して配置する場合、躯体とその間隔については保岸景観に対して有効比 $\sqrt{3}$ 対1となるように配置する（図－2）に示す。

図－2



4. 考 察

旧来工法は環境に順応できる反面扱う材料も多く、施工に手間が掛るのに対し、既成コンクリート構造物は施工は簡単ではあるが、環境に負荷を与える欠点があり、これを補足するための構成も必要と思われる。

5. 結 論

ローマ字体と類似する骨格（Skeleton）をもつ構造物には、水辺の風景と整合し、景観効果要素を備えていると思われる。景観は常に経済と環境の間で中心的な役割と時代の背景を代表すると考えられる。